

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ自主セミナー型 研修モデルの開発
プログラムの特徴	<p>①地域の教育委員会や学校現場と連携することで、18歳からの教職人生を見渡した教職キャリアの形成と切れ目のないフォローアップにつながる。</p> <p>②今日的な教育課題（ICT教育、Universal Design Learning、小学校外国語活動など）に取り組んでいる学校現場の実践者や指導主事、大学の研究者がそれぞれの立場で自主セミナーを開き、受講者が参加交流することでそれぞれの資質向上を目指す。</p> <p>③参加し易い形態を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none">・セミナーは年間を通じて毎週水曜日の夕方から開催する。・セミナー内容はデータベースとして蓄積し、WEBによる公開も行う。・参加者への情報提供や情報共有をSNS等の活用とWEBベースで行う。

平成27年3月

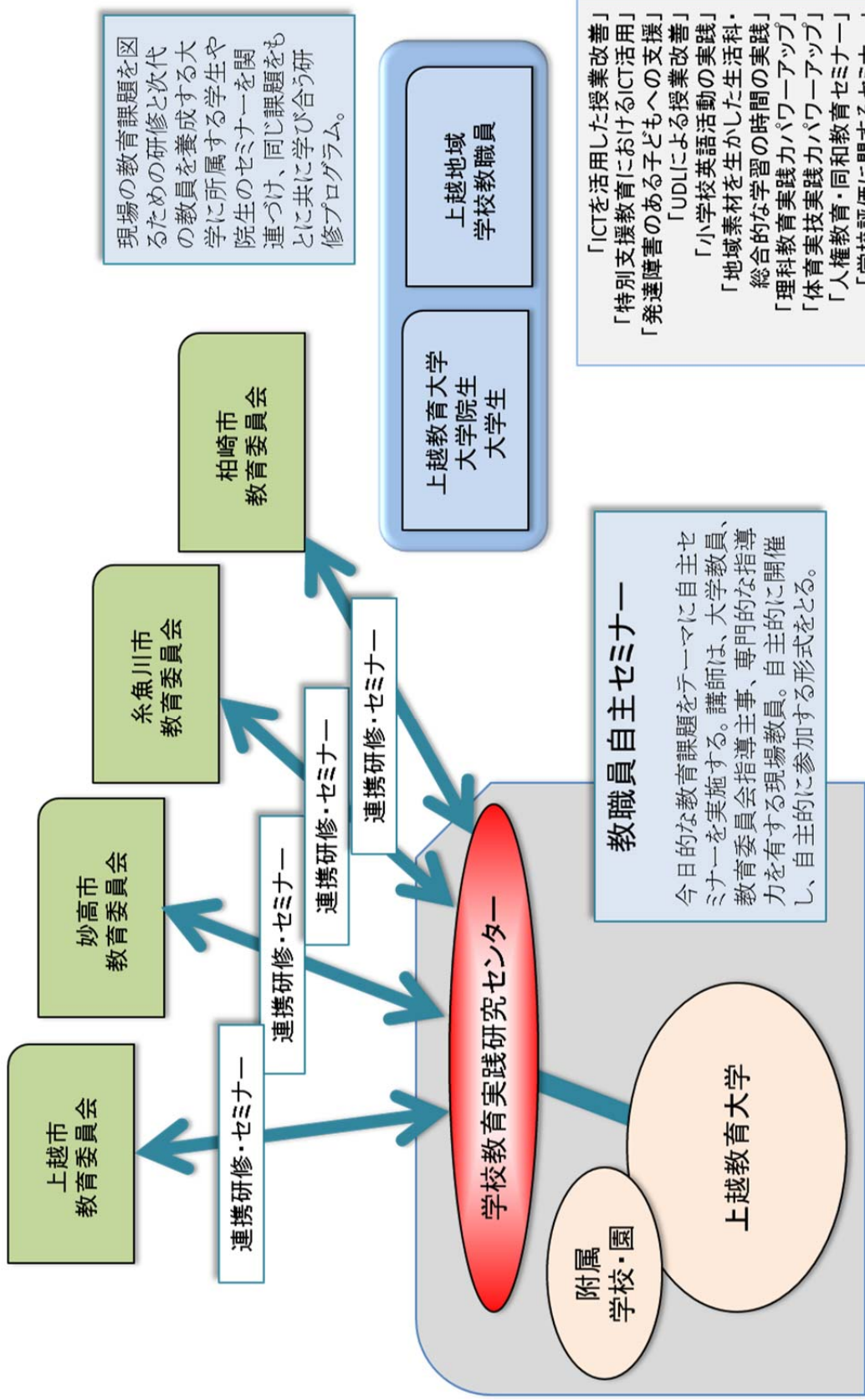
機関名 上越教育大学

連携先 上越市教育委員会・妙高市教育委員会

糸魚川市教育委員会・柏崎市教育委員会

学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ自主セミナー型研修モデル

4市の教育委員会と大学が連携・協働して、現場に即した教育課題をテーマに学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ場を設ける。大学教員のみならず教育委員会指導主事、専門的な指導力を有する学校教職員が講師となり、学校教職員と大学院生・学生が学校教育現場の教育課題や喫緊の教育課題について共に学ぶ自主セミナー形式で研修を行う。



I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

複雑化する社会を反映し、教育課題は年々増加し続け教育現場を圧迫している。地方教育行政は増加する教育課題に対応するための研修プログラムを構築する人的、物的環境と財源が限られている。また、行政主催の研修は研修計画作成が前年度であり、喫緊の教育課題への対応にタイムラグが生ずる。一方、教員養成大学では現場ニーズに即対応できる体制の整備と情報収集の機会構築が急務である。そのような中で教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策が求められている。そこで、4市の教育委員会と大学が連携・協働して、現場に即した教育課題をテーマに学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ場を設ける。

2 開発の方法

大学教員、教育委員会指導主事、専門的な指導力を有する学校教職員が講師となり、学校教育現場の教育課題や喫緊の教育課題について、学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ自主セミナー形式で研修を行い、効果を検証する。

3 開発組織

4市の教育委員会と連携して実施するため、本学及び連携4市で「連携協議会」を設け、全体の連絡・調整、事業計画立案及び事業運営にあたる。

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	上越教育大学・副学長	天野和孝		地域連携推進室・室長
2	上越教育大学・教授	石野正彦	連携協議会委員長／総括	
3	〃 ・特任教授	佐藤賢治	連携協議会委員，企画・運営	
4	〃 ・特任准教授	中野博幸	連携協議会委員，企画・運営	
5	〃 ・特任准教授	清水雅之	連携協議会委員，企画・運営	
6	〃 ・特任准教授	渡辺径子	連携協議会委員，企画・運営	
7	〃 ・特任准教授	倉澤秀典	連携協議会委員，企画・運営	
8	〃 ・特任准教授	佐藤人志	連携協議会委員，企画・運営	
9	〃 ・特任准教授	菊地雅樹	連携協議会委員，企画・運営	
10	〃 ・特任准教授	長沼智之	連携協議会委員，企画・運営	

11	上越市教育委員会 学校教育課長	吉田光夫	連携協議会委員	
12	妙高市教育委員会 こども教育課長	戸田正弘	連携協議会委員	
13	糸魚川市教育委員会 こども教育課長	渡邊寿敏	連携協議会委員	
14	柏崎市教育委員会 学校教育課長	阿部和雄	連携協議会委員	

II 開発の実際とその成果

研修対象を地域の小・中学校及び県立学校の教職員，地域の教育委員会の指導主事，本学大学教員・大学院生・学生など述べ 1000 人程度と想定し，教職員のための自主セミナーを上越教育大学学校教育実践研究センターで，4 市の教育委員会との連携研修は各市教育委員会の設定した研修場所で実施した。

セミナーや研修会の案内は，学校教育実践研究センターの発行するメールマガジンや月二回発行のセンターだより及び上越教育大学ポータルサイト等で，上越教育大学の学生や院生，上越地域の各学校，教育機関に広報を行った。

上越教育大学学校教育実践研究センター H26 センターだより 13号 2014年 10月 15日

教職員のための自主セミナー

あなたが学ぶ場、あなたが語る場、あなたが教える場、あなたが塾生！あなたが講師！

* 教職員のための自主セミナー後期ご案内を発行、配布いたしました。たくさんのご参加をお待ちしています！

セミナー名	講師	開催日程・会場	内容
国語のやっかいな教科書教材を楽しく授業する講座①	上越市立末広小学校 中野 英康 校長	10月22日(水) 18:30~20:00 セミナー室1 定員 10人	教科書を使って楽しく授業したいが、そのやり方がわからないという方大歓迎です。具体的な教材を使って進めます。
特別支援教育におけるICT機器の活用③	上越市立戸野目小学校 山崎 彰 教諭	10月22日(水) 18:30~20:00 ICT 研修室 定員 10人	特別支援教育に活用できるICT機器の紹介や演習を行います。3回目は「デジタル教材を活用してみよう!」です。
吹奏楽指導の基礎・基本②	菊地 雅樹 特任准教授	10月22日(水) 18:30~20:00 セミナー室2	吹奏楽における目指すべきサウンド、楽器の特徴と音のブレンド、アンサンブルの指導法など、吹奏楽指導の基礎、基本について学びます。対象：中学校
Σ会⑦	上越数学教育研究会	10月22日(水) 18:30~20:00 ライブラリー室	数学、算数をご担当の先生方や興味のある方なら大歓迎です。申し込みは不要です。直接会場までお越しください。
人権教育、同和教育セミナー①「人権教育同和教育の現状と課題」	上越教育事務所 梅澤 崇 課長	10月28日(火) 18:30~20:00 セミナー室1 定員 30人	上越地域で、同和教育の実践と研究を深めてこられた方々を講師にお迎えしてお話をお聞きます
先生方のための「命(いのち)の話」	十日町市立田沢小学校 渡邊 雅之 前校長	10月29日(水) 18:30~20:00 セミナー室1	「命(いのち)の大切さについて今の子どもたちに伝えたい…」そのために教師自身が命の重みについてじっくり考える機会となる講座です。
ICTで授業を変えよう!⑦ 初心者のためのLINE入門	上越市教育委員会 田邊 道行 指導主事	10月29日(水) 18:30~20:00 ICT 研修室 定員 20人	毎回異なる講師を迎えてICT教育の実践的な事例を紹介しています。今回はさまざまところで注目のLINEについて学びます。
ユニバーサルデザイン・ラーニング②	上越市立春日中学校 柳澤 一輝 教諭	10月29日(水) 18:30~20:00 セミナー室2 定員 30人	授業のユニバーサルデザイン化を図るために、理論を学び、実践を共有します。「学びあい」や「ファンクショングラフィック」など演習をおして授業力アップを目指します。

セミナーの日程変更と訂正

「自主セミナー後期ご案内」でお知らせしました自主セミナー・「英語を通して考える日本の学校」について日程の変更と一部訂正があります。

「英語を通して考える日本の学校」 → 「英語で考える日本の学校」

開催日 ②11月18日(火) → 11月11日(火)

時間 18:30~20:00 → 18:45~20:15

定員 20人 → 30人

*ご迷惑をおかけしますが、お間違のないようお願いいたします!



チャールズC.
ストロッドン 専務理事



辻野けんじ 准教授

月2回，大学及び地域の学校に配布しているセンターだより

1 ICT セミナー「ICT を活用した授業改善」

(1) 研修のねらいとその背景

ICT 活用の教育現場での普及と大学院生・学生の実践的指導力の向上を目指す。

ICT を活用した授業改善は学校教育現場での喫緊の課題であるとともに次代の教員を養成するカリキュラムにも反映していかなければならない。上越教育大学附属中学校で取り組んだフューチャースクールやICTを活用した先駆的な授業改善の方法についてその実践内容を広く普及するためフューチャースクールに取り組んだ実践者及び関係者や現場で先駆的に取り組んでいる実践者を講師としてワークショップ形式で行う。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師、(4) 実施内容（時間は、原則 18:30～20:00）

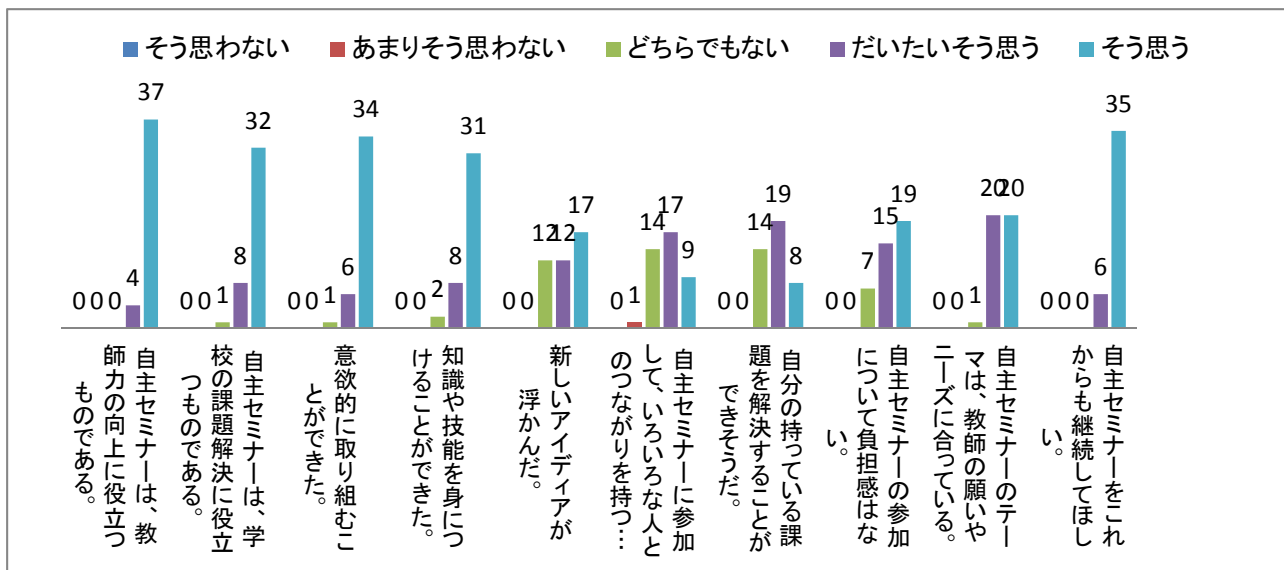
日時	内容	形態, 教材, 進め方等
6/18	手にしたばかりの人, これから買おうとする人のためのiPad活用セミナー 講師: 大橋鼓氏 ((株) JMIX)	すべてワークショップ形式で実施した。
6/25	授業に活かす拡張現実 (AR) 入門 講師: 上越教育大学 中野博幸特任准教授	
7/30	Kinectの教育的利用の可能性について 講師: 中村広也氏 ((株) JMIX) 附属中学校ICT支援員	
8/6	情報モラル入門 講師: 大笹いずみ氏 (一般社団法人こどもコミュニティサイト協議会)	
10/1	超初心者のためのLINE入門 講師: 上越市教育委員会 田邊道行指導主事	
10/29	ズーミングプレゼンテーション「prezi」入門 講師: 上越市立谷浜小学校 亀山浩校長	
11/27	授業におけるICT活用その1 (附属中学校フューチャースクールの実践から)	

	講師：小池克行教諭（上越教育大学附属中学校教諭，教職大学院生）	
12/21	授業におけるICT活用その2（附属中学校フューチャースクールの実践から） 講師：小池克行教諭（上越教育大学附属中学校教諭，教職大学院生）	
2/25	「新学期に向けて～カリキュラムにICT」 講師：上越市立大町小学校 戸田正明教頭	

(5) 実施上の留意事項
特になし

(6) 研修の評価方法，評価結果
評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー 「ICTで授業を変えよう！」 アンケート結果



自由記述

- ・最新の ICT 事情に触れることができ刺激となりました。子ども達は生まれた時から ICT に囲まれているのだなと思い、新しいものに触れる必要性を感じました。
- ・セミナーの参加者が各自の実践を発表し合う機会があってもいいと思います。最新の電子黒板に触れることができよかったです。
- ・タブレットと電子黒板を連携させた活用の仕方を検討したいと思います。改めてご指導いただける機会があれば教えていただきたいです。
- ・IWBという言葉はほぼ初耳でしたし、最新の電子黒板に触れることができ勉強になりました。ただ公立の学校で活用するにはハード面がまず揃えられないのでは？となります。公立の環境で不慣れな先生でも「これなら効果がある」「これなら難しくない、やってみたい」事例を様々な教科で蓄積して発信してもらいたい。
- ・実際の画面に触れて大変よくわかった。LINE の良さも抱える問題も今日の話で子ども目線に立って知ることができた。
- ・参加人数が少なかったので、1対1で丁寧に教えていただきました。LINE などの SNS は知っておくべき事とは思いますが、個人的には使用するつもりがなかったです。でも今回のセミナーを受けて、仕組みなどを知ることができました。今後学校現場での生徒・保護者対応に活用できると思います。
- ・1つのもので様々な使い方というのが ICT のよさだと感じました。クラウドサービス、PDF でフラッシュカード、モザイク問題、AR 拡張現実、仮想現実、リモート操作 kinect は特別支援の可能性が高いのでは？直感的な操作ができる
- ・kinect : 体育の自己観察にはただ単に動画を撮るより、自己の動きを確認できる。
- ・以前 Prezi を見たことがあり、興味があったのですが、料金のかかることがネックで半ばあきらめていました。無料という言葉にひかれてやってきました。ぜひやってみたいと思います。そういう意欲にはつながりました。

2 ICTセミナー「特別支援教育におけるICT活用」

(1) 研修のねらいとその背景

特別支援教育における ICT の活用は，子どもたち個々の特性に対応した教育のツールとして着目されている。普通学級における特別に配慮を必要とする子どもたちへの学習援助や通級教室や交流学級での ICT 活用も効果をあげている。先駆的な授業改善に取り組んでいる実践者を講師として「特別支援教育における ICT 活用」のノウハウと具体的な取組事例をワークショップ形式で学ぶ場とする。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員，地域の教育委員会の指導主事，本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

上越市立戸野目小学校 山崎 彰教諭

(4) 実施内容（時間は，原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
4/30	手軽にICT機器を活用してみよう	
6/11	自作してみよう！実物投影機	
10/22	デジタル教材を活用してみよう	

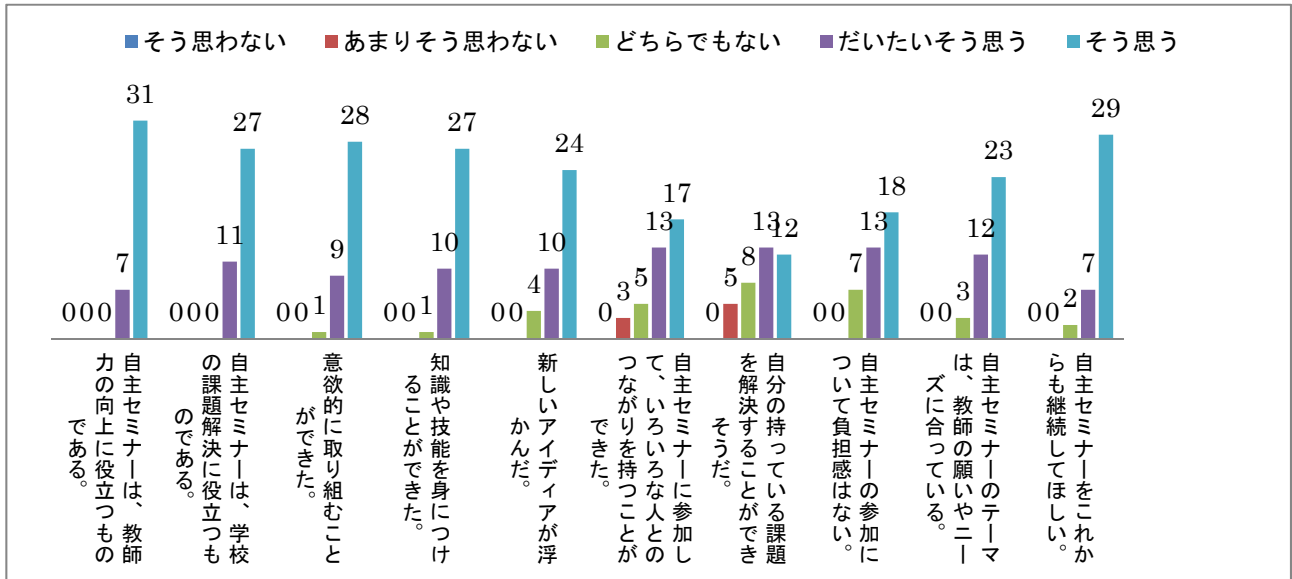
(5) 実施上の留意事項

特になし

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー「特別支援教育における ICT 機器の活用」 アンケート結果



自由記述

- ・実際にどのように活用するのかがよくわかった。特に写真や動画ですぐに振り返りができるのは魅力的だと思います。実際に体験することができてよかったです。
- ・特別支援教育に関する ICT 機器の活用がテーマでしたが、通常の学級に在籍している障害のない子どものためにもなるなあと思いながら受講しました。ユニバーサルデザインの視点を導入した授業として子どもにとって有効だと感じました。
- ・ICT 機器について様々なところでその有用性は聞くものの、実際どのように使われているのかを知る機会はなかったなので、その一例を知ることができた。
- ・児童のやる気を失わせないためにも日常的に使えるようなもの、身近な用具を学校現場で使うという考え方をこれからも活かせるように勉強していきたい。
- ・IC レコーダーと DS については、在籍の子どもに活用できそうです。タブレットもよさそうですが、役に立つ様子を見せていろいろ導入したいと思います。
- ・世間一般に普及しているもの、子どもたちが興味を持ちやすいゲーム機器を用いて気軽に取り組めることが分かりよかったです。タブレットや DS に頼りすぎず、子どもの実態や場面、目的をしっかり把握して取り入れられるといいと思います。
- ・子どもたちが意欲的にわくわく取り組めそうなものばかりで、「ひらがな」「漢字かきとりくん」など印象的でインパクトのあるものの紹介で今後使ってみたいと思いました。なるべく安いものを！という先生の熱意と足で手に入れたものばかりでした。お休みの日をそのように使われていると思うと素晴らしいなと思いました。
- ・実物投影機はこれまで活用することもありいくつかの具体例は浮かんだが、今日知ったこともたくあった。コンパスや分度器、定規の操作をする際の手の動きが見える生中継の意義を意識できた。今後実践してみたい。
- 「投影機を作る」とあったので、時間がかかると思っていたのですが、ほぼ設置するだけでどんな職員でもできると思いました。職場でも紹介したいと思います。

3 特別支援教育セミナー「発達障害のある子どもへの支援」

(1) 研修のねらいとその背景

発達障害のある子どもに対する教育支援を専門家による講義で学ぶ。
 発達障害のある子どもへの支援は学校現場にとって近年最重要課題となっている。発達障害のある子どもへの対応についての基礎的理解と実践的指導力の向上を目指し、教育現場において指導的な立場で実践してきた指導者を講師としてワークショップ形式で学ぶ場とする。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、
 本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

新潟県立上越特別支援学校 堀井利衛子教頭
 糸魚川市立ひすいの里総合学校 佐囲東彰教頭
 柏崎市教育委員会 今井由実子指導主事

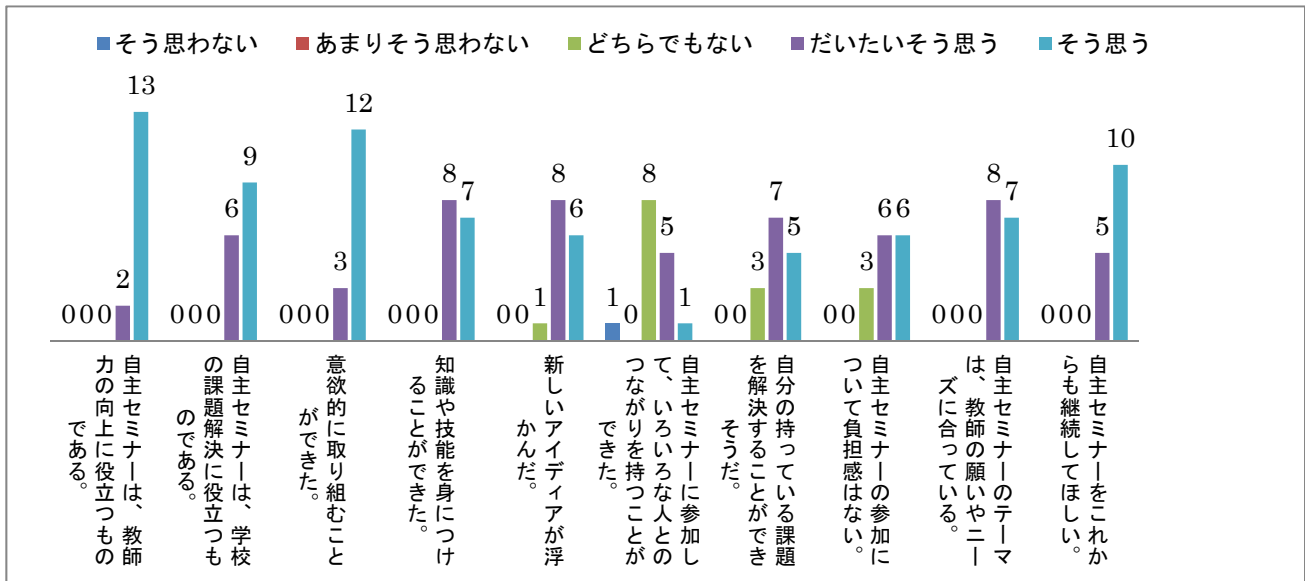
(4) 実施内容（時間は、原則18:30～20:00）

日時	内容	形態、教材、進め方等
5/28 7/2	「発達障害のある子どもへの支援」① 「発達障害のある子どもへの支援」②	上越特別支援学校、堀井利衛子教頭によるワークショップ
6/4 8/8	「発達の特性がある子供への支援」① 「発達の特性がある子供への支援」②	柏崎市立教育委員会学校教育課、今井由実子指導主事によるワークショップ 会場：柏崎市教育委員会
11/7	特別支援教育「小中学校における必要な校内支援体制」の構築	糸魚川市立ひすいの里総合学校 佐囲東彰教頭によるワークショップ 会場：糸魚川市立ひすいの里総合学校

(5) 実施上の留意事項
 特になし

(6) 研修の評価方法、評価結果
 評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー「特別支援教育セミナー 発達障害のある子どもへの支援」アンケート結果



自由記述

- ・LD児への英語指導について知りたかったので、今日の内容を参考に教材を工夫していきたい。通常の学級（中学校）にも生きる内容だったと思う。
- ・現在高校生と学習しています。今回のセミナーの本論ではなかったのですが、「生きる力をつける」「学ぶ意欲を持たせる」という点では私も苦心しているところです。雑談という形でも構わないので、もう少し深くお話しただけると嬉しいです。
- ・実際に使えること、どう考えるかといったことの学びになりました。
- ・聴く・書くということで興味を持ち参加させていただきました。特支C0として、各クラスをみているとなかなか聴く力がついていないと思われる児童、クラスがあります。それに対してどのような支援ができるか考えながら聴くことができました。書くということについては私の持っている児童や各クラスにいる子に対して、そうなのかな？と思いながらお話を聞かせていただきました。明日から実践していきたいと思います。
- ・中学生の通級指導は何をねらい、どう指導をすればよいのか悩んでいます。ヒントになることをたくさん教えていただきました。
- ・今自分が受け持っている生徒たちはほぼ全員自分に自信がない状態。どうやって自信を持たせて自己有用感を高めるかという点についてヒントになることもあった。
- ・特支C0としてできることを具体的にイメージしながら聞かせてもらいました。苦手だからそうしているのに、わかっている「ダメ」と言ってしまう自分を反省しました。自分で個別の指導計画を立てる（中学校への引き継ぎとして）というのは、中学生以降の子にはいいなと思いました。誰のためのユニバーサルか？を考えて全校で取り組んでいきたいと思います。

4 特別支援教育セミナー「Universal Design Learningによる授業改善」

(1) 研修のねらいとその背景

Universal Design Learning について現場教員の実践力向上と大学院生・学生の理解を深める。

平成25年度の法改正により発達障害のある子どもも含めたインクルーシブ教育システムの実現は緊急かつ重要な学校教育課題である。通常の学級における発達障害のある子どもへの支援の方法として Universal Design Learning が注目されている。上越市教育委員会は、インクルーシブ教育システムを実現するためにいち早く Universal Design Learning を取り入れた授業改善を学校現場とともに研究を進めてきた。大学の教員も連携し、この実践的な研究を広く普及するとともにさらに深めるためにセミナーを行うとともに研究組織を作成する。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

第1回：上越市教育委員会 関原真紀指導主事

第2回以降：上越市立春日中学校 柳澤一輝教諭

(4) 実施内容（時間は、原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
5/28 6/18 7/16	第1回～第3回「UDLを学ぶ」	第1回はキックオフとして位置づけ、上越市教育委員会の関原指導主事による講義を行った。 2回目と3回目は上越市立春日中学校の柳澤教諭によるワークショップ形式で実践を行った。 なお、このセミナーを契機に「ユニバーサル・デザイン・ラーニング研究会」が結成され、4回目、5回目と自主的に例会を重ねている。

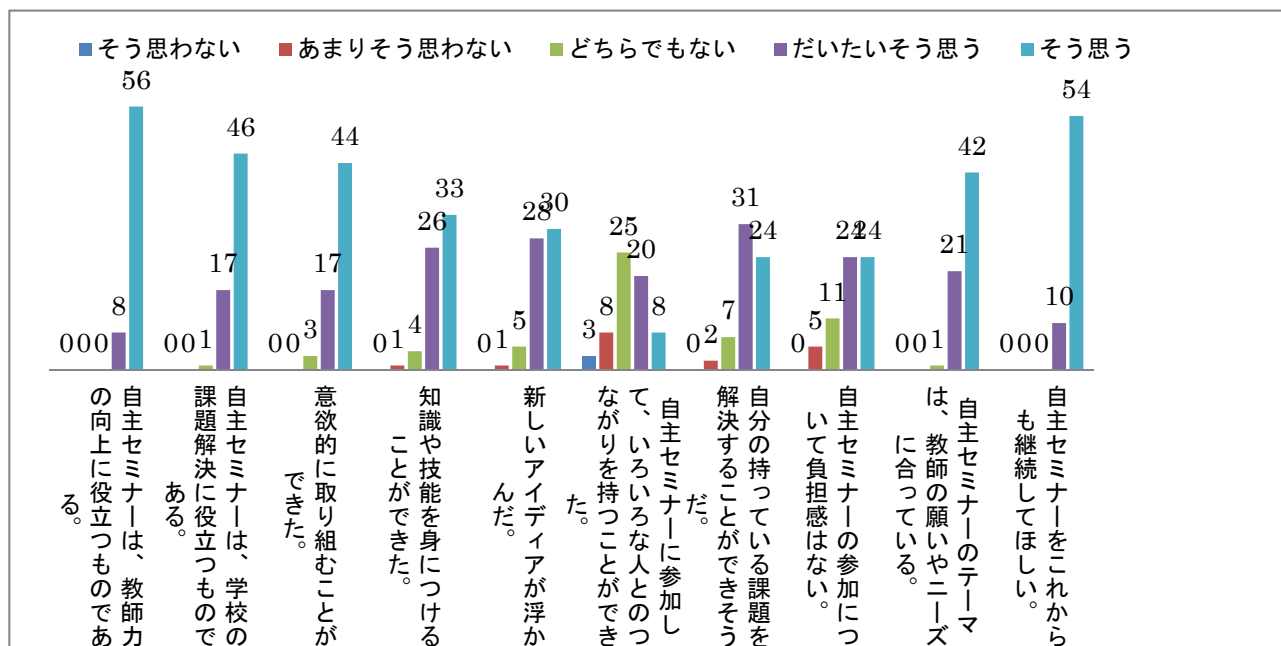
(5) 指導上の留意点

特になし

(6) 研修の評価方法、評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー「UDL を学ぶ」 アンケート結果



自由記述

- ・「意図のある経験を積むこと」「自分の実践を振り返り意味づけること」日々意識して経験を積んでいくことで、力量のある教師となっていくのだなと思いました。「子どもの分かり具合、分からない具合」を見取り、フィードバックすることで子ども達の「分かった！」を作り出せるような授業づくりをやっていけるような力量をつけていきたいものです。
- ・今まさに UD 支援訪問に向けて指導案を作らなければという時に、タイムリーに研修を受けることができありがたかったです。実際の授業場面でのことと、理論の両方が聞けて勉強になりました。自分のクラスの子どもの姿を思い浮かべながらどんな手立てが必要かイメージしながらお話を聞いていました。授業の質を落とさず、みんなにわかる授業を目指して工夫していきます。
- ・授業づくりに関して言われてみれば当たり前なのかもしれないけど「教科の特性を理解すること」が大切ということが抜け落ちていたように思いました。国語→明らかに違うものを入れるとか算数→条件不足の問題を作る…といったことは授業をしている中で気づきにくいものでした。また手遊びやつまらなそうな姿をリトマス紙と考えることは、教師ががっかりしたりイライラしたりする疲弊感ではなく、前向きな捉えを促してくれるものだと感じました。UD 授業づくり、学級環境づくりを学校全体で考えていくことはやれたらいいなと強く思います。
- ・久しぶりに自主セミナー参加しました。新しい情報や考えに触れ、また明日から頑張ろうと！もっと笑顔でほめてあげようと思いました。開始時間がもう少し遅いほうが参加しやすいかもしれません。帰りが遅くなってしまいますね。タイムタイマーの具体的な使い方、メソッドなどありましたら知りたいです。
- ・負担感について勤務校からここへ来るまでに 1 時間ほどかかるという点です。
- ・ヤマ場を重視した授業案を作成し、実践しているがまとめの段階でたいがいの生徒がつまづくことがある。自分の狙いに合うまとめの仕方をどう考えていくか…。
- ・小、中と実践的な発表であり、大変参考になりました。先生、管理職に恵まれていると感じたので、CO として UDL をもっと推進していく必要があると感じました。さまざまな方法で研修したり、啓発をしたりしていきたいです。今日の内容から使わせていただきたいと思うものも多かったです。ありがとうございました。

5 教育課題セミナー「小学校英語活動の実践」

(1) 研修のねらいとその背景

小学校英語活動について、学校教職員の実践的指導力向上と大学院生・学生の理解を深める。

小学校現場で新しく取り入れられた英語活動について、指導的な立場の実践者からその意義と実践的な取組をワークショップで学ぶ。

(3) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

上越教育事務所 重野準司指導主事

(4) 実施内容（時間は、原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
9/10	コミュニケーション活動を楽しむアイデア	講義及びワークショップ
9/17	“Hi friends!” を用いた授業を一層楽しむアイデア	
9/24	ICTを使って授業を楽しむアイデア	

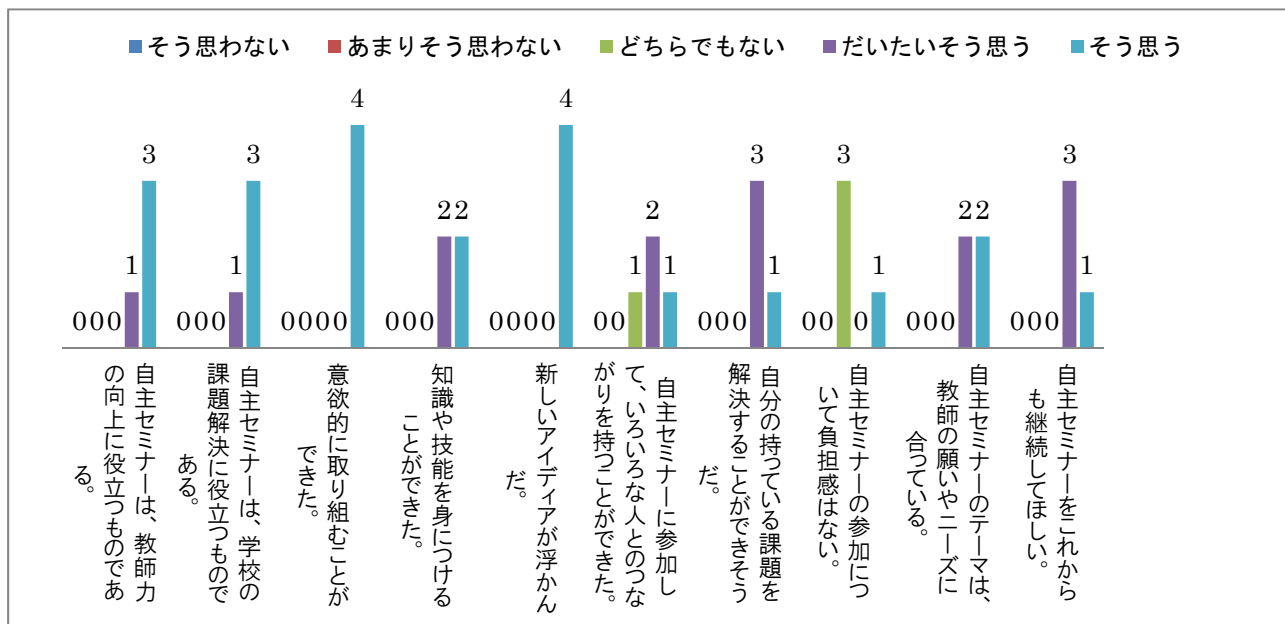
(5) 指導上の留意点

特になし

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー 「外国語活動セミナー」 アンケート結果



自由記述

- ・今回参加したことで自分自身の抱えている課題への解決策やアイデアがわかり、自分のモチベーションがあがりました。
- ・明日からの指導に役立つ内容がありました。
- ・来月に公開授業を控えているので、よい示唆になりました。
- ・自分の課題解決、現場での悩みを解決するために参加しました。とてもよいアドバイスをいただき、これからの実践に役立てそうです。

6 教育課題セミナー「地域素材を生かした生活科・総合的な学習の時間の実践」

(1) 研修のねらいとその背景

地域素材を生かした生活科・総合的な学習の時間について学校教職員の実践的指導力向上と大学院生・学生の理解を深める。

新学習指導要領で時数が削減されたが、生きる力を育てる糧となる生活科や総合的な学習の時間の重要性は変わらない。むしろ、より必要性が増していると考えられる。生活科、総合的な学習の時間を生み出した自負のある上越地域では学習指導要領に入れられる前から生活科や総合単元学習がさかんに行われてきた。その伝統を絶やさずかつ発展させていくために、生活科や総合的な学習の時間の実践的な指導力を育成するセミナーを実施する。特に動物飼育にフォーカスして、そのノウハウを実践的な指導者や専門家を招いてワークショップ形式でセミナーを実施する。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

宮川動物病院 宮川保院長（獣医師）
上越教育大学 長沼智之特任准教授
上越教育大学 松井千鶴子准教授

(4) 実施内容（時間は、原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
11/5	生活科，総合的な学習での動物飼育の取り扱い 小動物の抱き方，心音の聴き方についての実習	宮川動物病院 宮川保院長（獣医師）を招いて，実際に小動物を使ったワークショップ
11/12	生活科における飼育活動について，実践例の紹介と指導計画の作成，指導上の留意点	上越教育大学の長沼特任准教授によるワークショップ
11/19	総合的な学習の時間における飼育活動について，実践例の紹介と指導計画の作成，指導上の留意点	上越教育大学 松井准教授によるワークショップ（ゼミ形式のセミナー）

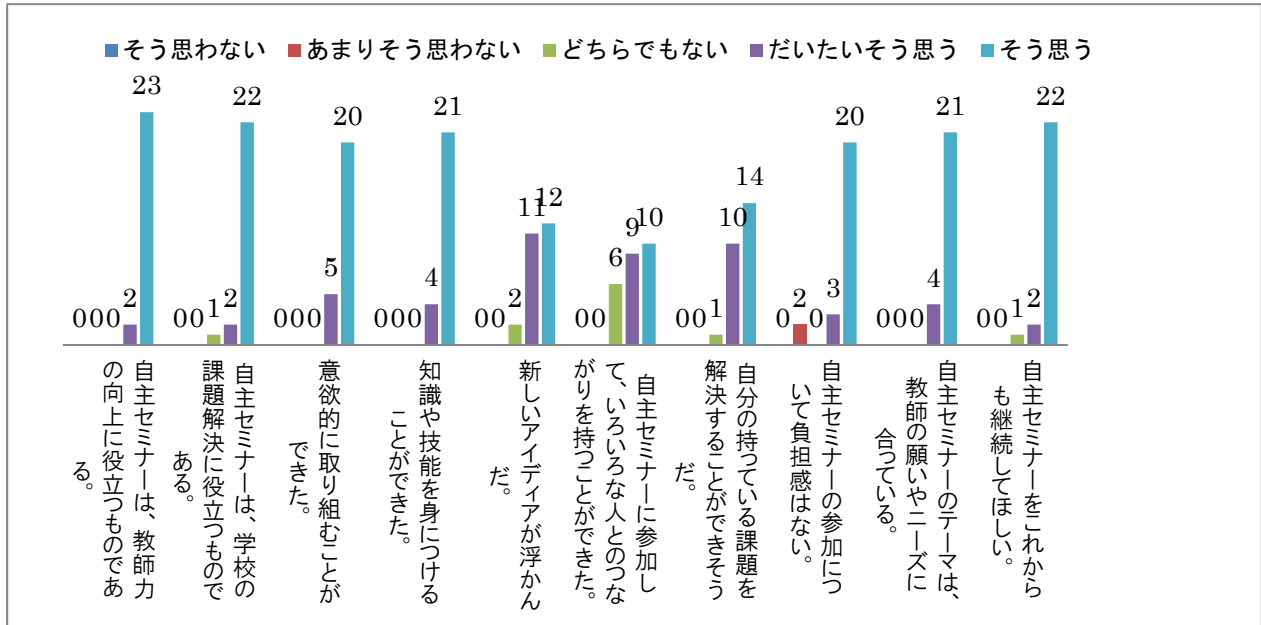
(5) 指導上の留意点

小動物を実際に扱うので，取り扱いについての事前の準備を獣医師の指導のもとで行った。

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー 「学校で動物を飼おう！」 アンケート結果



自由記述

- ・学校飼育の課題、その通りだなと思うと同時にとても参考になる改善策や知識を教えてくださいました。生活科の指導解説や関連調査（アンケート）もとても興味深く、あらためて活動について考えたいと思いました。ぜひ上教大でもこのような授業をしていただきたいと希望いたします。
- ・セミナーの案内の中にもう少し内容がわかる記載があると参加したくなると思う。タイトルだけだと自分の興味・関心・必要感に合っているのか判断しにくく、多忙な日々だと目の前の仕事を優先してしまうようである。
- ・動物飼育についての知識・技能はもちろんのこと、命の尊さや人間と動物の関わりから得られること、また注意しなければならないことなど、多くの大切なお話を聞くことができました。非常に有意義な時間でした。終始聞き入ってしまうようなあっという間の90分間でした。実習は本当に良い経験となり、また動物と実際にふれ合わせていただくことで、心もあたたかくなりました。今日来ることができよかったです。
- ・ウサギに触られてとてもよかったです。モルモットもいいですね。
- ・動物の飼い方や特徴をつかむことができ、とても為になりました。動物や人間の心臓の音を聞くとこんなにも違うのかと思い、びっくりしました。補聴器を使って心臓の音を聞くとますます身近に感じる事ができ、とても貴重な経験をさせていただきました。今日来てよかったです。動物可愛かったです。
- ・飼育動物の診療が実現されるといいなと思います。
- ・人数が少ないこともあってか、他校や他県の方の話もきくことができよかったです。
- ・モルちゃんとの暮らしを通して、一年後子どもが飼育者としての自覚を持った、自信に満ちた表情がとても印象的で、その育ちを感じました。
- ・愛情飼育と屠畜体験の図はとても参考になりました。

7 教育課題セミナー「理科教育実践力パワーアップ」

(1) 研修のねらいとその背景

理科教育について学校教職員の実践的指導力の向上と大学院生・学生の理解を深める。

小学校現場では理科の指導力不足が問題になっている。実際に身近な地域に出て自然観察をするとともに理科教育（観察や実験など）についての実践的な取組をワークショップで学ぶ。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

上越教育大学 五百川裕准教授

(4) 実施内容（時間は、原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
6/18	夕暮れ，市街地の自然観察1	iPadで写真やビデオをとったりアプリで植物の同定を行ったりしながら高田城公園周辺の野外観察を行う。
7/16	夕暮れ，市街地の自然観察2	
9/ 3	夕暮れ，市街地の自然観察3	

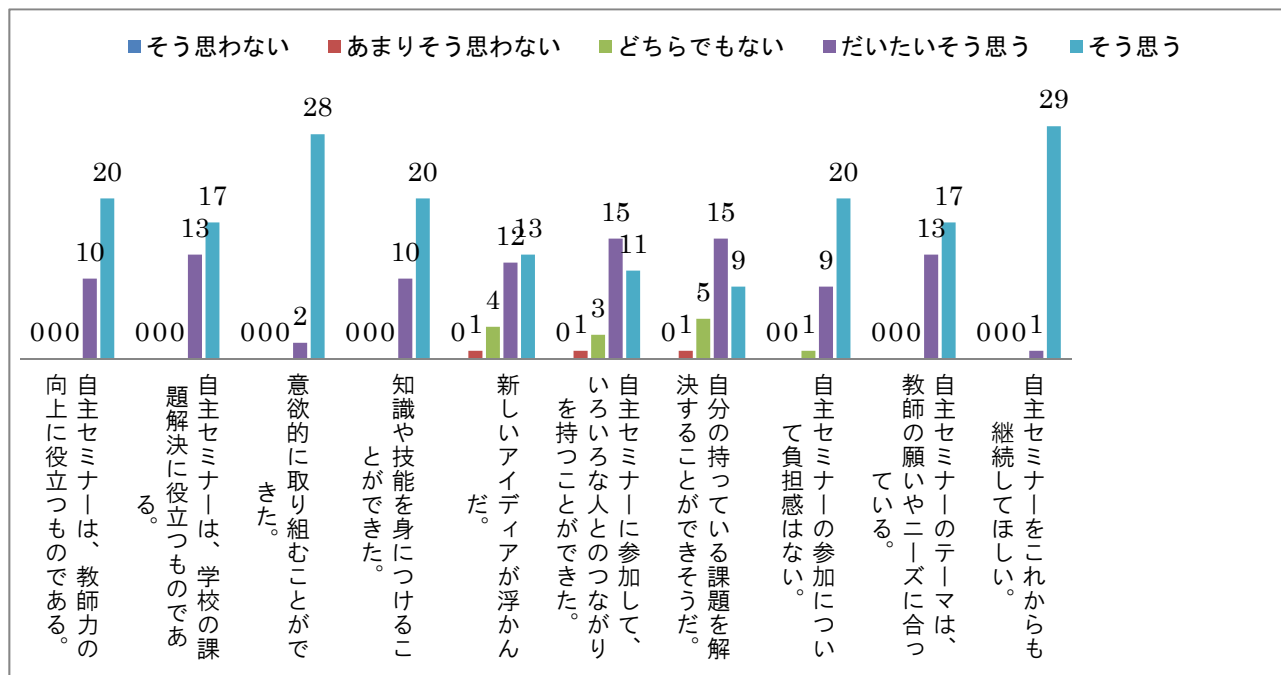
(5) 指導上の留意点

iPadを野外で使用するために防水のiPadケースを用意した。

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー 「夕暮れ、市街地の自然観察」 アンケート結果



自由記述

- ・参加したからこそ知り得る情報がありました。自分の教科に直接は生かせないかもしれませんが、授業の中で子どもとの何気ない日常の会話の中などで話せると思っています。住んでいる町をゆっくり周り、自然に触れ心もあたたかくなりました。
- ・何気なく見たり聞いたりしているものの中に実はよく知らないものが多くあり、それらを知ることができるよい機会となりました。時間的にもちょうど良いとおもいます。次回も天気が持ってくれることを願っています。
- ・普段の講義では聞くこと、見ることができないものを経験することができました。iPad が全国的に学校で使われるようになれば生徒、児童の観察に役立つと感じました。
- ・前回観察したものの変化をみることができ面白かったです。またサルスベリのオシベの付き方はそんな付き方があったのかと非常に驚きました。
- ・前回に続いての参加です。iPad 初心者なので自然観察だけでなく、iPad やさまざまなアプリに触れられるのも楽しい勉強になりました。前回のカラスの話以降やたらとカラスの鳴き声を気にしてしまうので、セミナーの効果が出ているのかなと感じています。
- ・ハスの花を詳しく観察したことがなかったので、とても勉強になりました。高田公園によく行くのでこれから花や虫を見る視点が少し変わるかもしれないと思います。新潟にいる間にいろいろな自然に目を向けたいと思いました。
- ・iPad の使い方が少しずつわかってきて、ほかのいろいろな分野でも使えるのではないかと考えました。自然観察とても楽しかったです。

8 教育課題セミナー「体育実技実践力パワーアップ」

(1) 研修のねらいとその背景

体育実技について学校教職員の実践的指導力の向上と大学院生・学生の理解を深める。

武道やダンス，水泳など体育実技についての実践的な取組をもとにした講義やワークショップで学ぶ。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員，地域の教育委員会の指導主事，本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

第1回～第3回 上越教育大学 土田了輔教授

第4回～第5回 上越教育大学 周東和好准教授

(4) 実施内容（時間は，原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
10/ 1 10/ 8 10/15	ボール運動・球技の授業1～3 ～「どう動いたらいいかわからない」を克服するには～	上越教育大学 土田教授
11/ 5 11/19	コツのつかみ方・伝え方1～2	上越教育大学 周東准教授

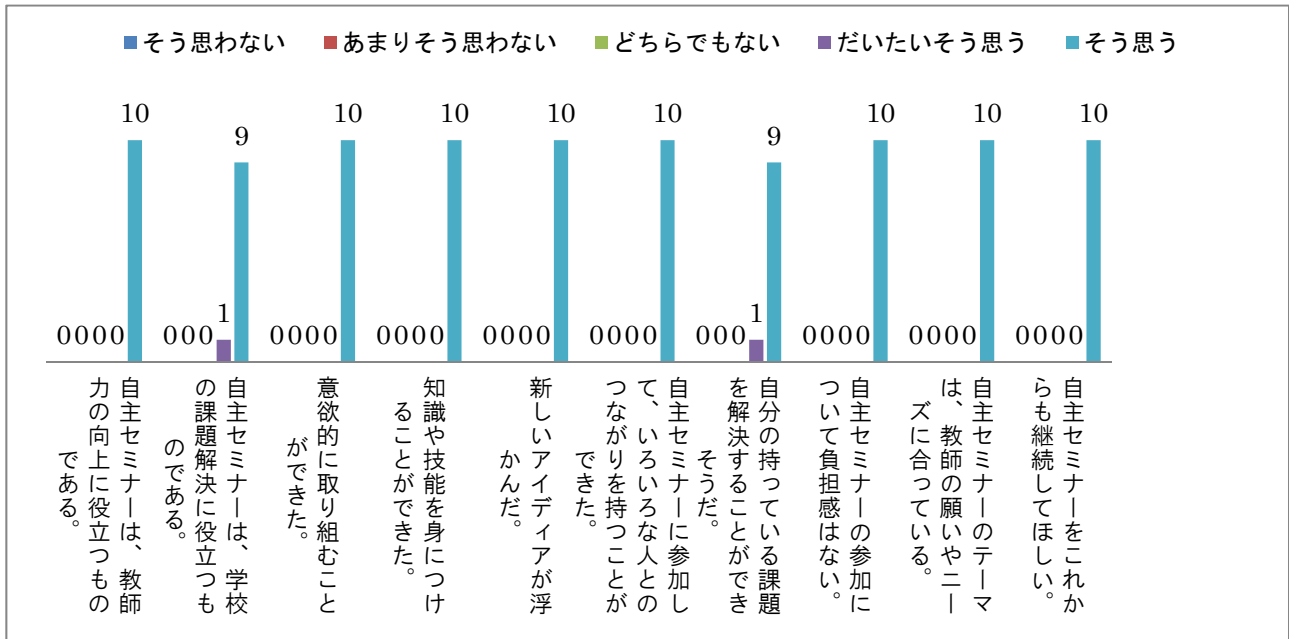
(5) 指導上の留意点

実際に体を動かすために準備運動の指示。

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー「体育実技実践力パワーアップ」 アンケート結果



自由記述

- ・ 体育技能の評価、技能のとらえ方が変わった。どう評価していくか、自分の中でも勉強したい。
- ・ 自分のレポート、実践の発表をさせてもらったが、議論の時間を多くさいていただきありがたかった。先生のお話がすくなくなってしまう、申し訳なかった。
- ・ 役割変化で評価する・・・がイメージできなかったが、関係性で見ていくということをヒントで得ました。分業から兼業になっていくということが技能向上ととらえられるのはヒットでした。3回を通してゲームを見る、授業を考える視点がまた変化しました。実践する際にチャレンジしていきたいと思います。そのためにももっと勉強させてください。
- ・ 3回参加させていただき、体育に興味を持ちました。これから機会を見つけて学んでいきたいと思えます。このセミナーの内容は体育だけではなく子どもの見とり観を学ぶよい会でした。大学院に来た理由の一つが自分の見とりの力をつけたいということもあります。他ゼミとの交流は刺激がありよいものだなあと思えました。
- ・ 現職の先生方に実際の授業をイメージした時の疑問や率直なご意見をいただき、大変ありがたかった。自分の実践構想に対してこのように気軽に交流でき、かつ気兼ねなく意見交換ができる場はなかなかないのでとてもためになった。土田先生にも意見交換の時間を与えていただき、じっとお聞きいただき、最後にはわかりやすく端的な指導をしていただき理解が深まった。
- ・ 自身の指導案を作成するうえで参考になることが多く、勉強になりました。子どもが動け、ゲームに貢献できるようにするために、どういう手だてが必要か、また単元を通してどういう作戦を考えたり、どういう風に動けるようになったりしてほしいか考えることが大切と感じました。ぜひ今後とも学ばせていただきたいと思えました。

9 人権教育・同和教育セミナー

(1) 研修のねらいとその背景

人権教育・同和教育について学校教職員の実践的指導力の向上と大学院生・学生の理解を深める。

人権教育や同和教育に関して先導的に取り組んできた学校の実践や研究を講義と通して学ぶ。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員, 地域の教育委員会の指導主事, 本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

第1回 上越教育事務所 梅澤崇課長

第2回 新潟産業大学 秋山正道教授

第3回 妙高市立姫川原小学校 飯塚裕教頭

(4) 実施内容 (時間は, 原則 18:30~20:00)

日時	内容	形態, 教材, 進め方等
10/28	第1回 人権教育, 同和教育の現状と課題 講師: 上越教育事務所 梅澤 崇課長	受講者が多く, いずれのセミナーも講義形式で実施した。
11/6	第2回 歴史認識を深める 講師: 新潟産業大学 秋山正道教授	
11/26	第3回 授業づくりのポイント 講師: 妙高市立姫川原小学校 飯塚 裕教頭	

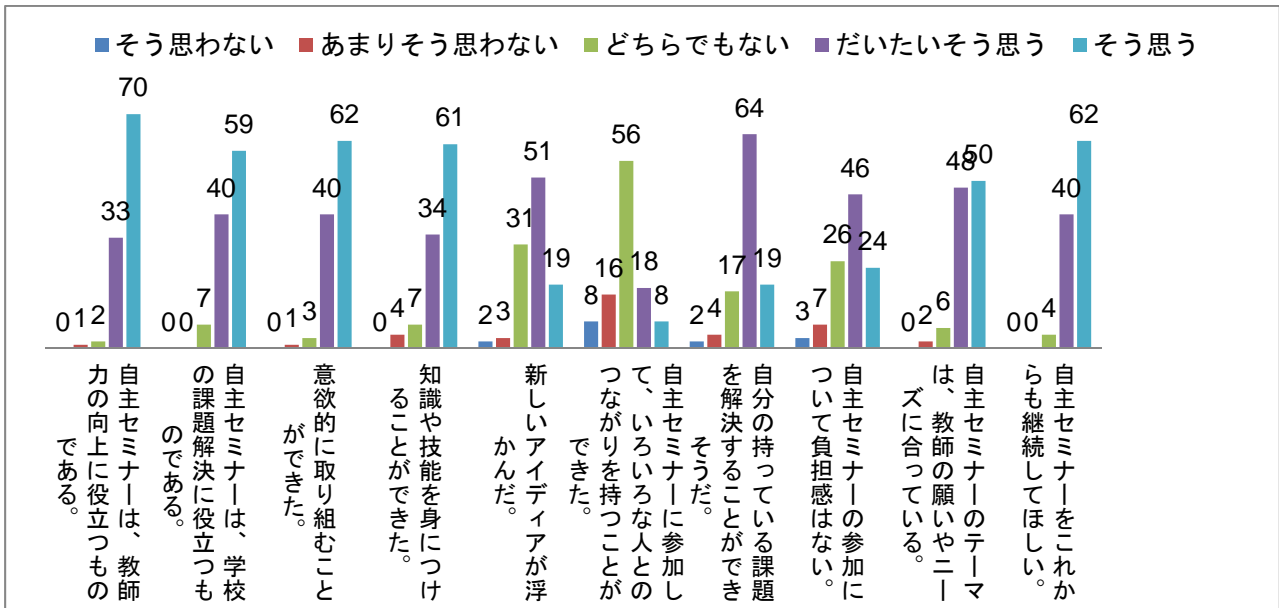
(5) 指導上の留意点

特になし

(6) 研修の評価方法, 評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー 「人権教育、同和教育セミナー」 アンケート結果



自由記述

- ・どうしても勤務時間になってしまうので、可能なら勤務時間内がありがたい。空腹での参加になってしまし、講師の方も同様？ぎりぎりまで仕事をしている人も多い。
- ・同和問題についてはじめて考える新たな視点を持つことができた。秋山先生からは再度セミナーの講師を務めていただきたい。研修を通して気づきは必ずあるものだと実感した。新たな疑問を解決するために研修は必要である。
- ・勉強不足を実感しました。「いかに差別していったのかを、教えないと感覚が育たない」という秋山先生の言葉を胸に、自分自身の人権感覚をみがき、子どもたちに接していきたいです。
- ・授業づくりの研修だったので、もう少し授業づくりについて新しい方法や資料等について話をききたかった。
- ・人権教育、同和教育にも「学級づくり」が大切ということがわかりました。「かわいそう」で終わらずに「自分自身の問題として考えていける」ことが大切なのですね。私自身がまず同和問題について勉強しなければいけないと思いました。
- ・東本町小学校の研究の取り組みの話より、飯塚先生のこれまでの実践を具体的にお聞きしたかったです。
- ・後半（19：30ころから）の話が、同和教育をどう実践するかという、現場の自分の悩みに合致するものだったので、そちらをもっと聞きたかったです。お忙しい中、このような研修を受けさせていただけるのは大変ありがたかったです。終了時間を守っていただけなかったのはとても残念です。
- ・具体例をもとに話していただけるともっとわかりやすいと感じた。
- ・私は高校に勤めているが、今日の実践発表（セミナー）は、非常に参考になった。今後の人権教育、同和教育に活かしていきたい。

10 学校評価に関するセミナー

(1) 研修のねらいとその背景

学校評価支援アンケートシステムの操作を学ぶとともに学校評価を生かした学校経営改善について理解を深める。

本学学校教育実践研究センターでは学校経営改善に資するために「上越教育大学学校評価支援アンケートシステム」を開発した。この「学校評価支援アンケートシステム」を用いることでアンケート項目の設定から共通フォーマットによるアンケート作成ができる。また、スキャナによる連続自動読み取りで集計と簡単な統計処理も可能になる。アンケート処理にかかる時間と労力を著しく少なくすることで学校経営改善にかかる協議の時間を生み出すことが可能になる。上越地域のすべての学校にこのシステムは解放されており、活用している学校は多い。本セミナーではこのシステムの操作から学校経営改善に結びつけるアンケートの活用までを講義と演習で学ぶ機会を設けている。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員，地域の教育委員会の指導主事，本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

上越教育大学 中野博幸特任准教授

(4) 実施内容（時間は，原則18:30～20:00）

日時	内容	形態，教材，進め方等
7/9	論文作成や授業評価，学校評価に生かすデータ分析 第1回セミナー	講義及び演習
7/16	論文作成や授業評価，学校評価に生かすデータ分析 第2回セミナー	
7/23	論文作成や授業評価，学校評価に生かすデータ分析 第3回セミナー	

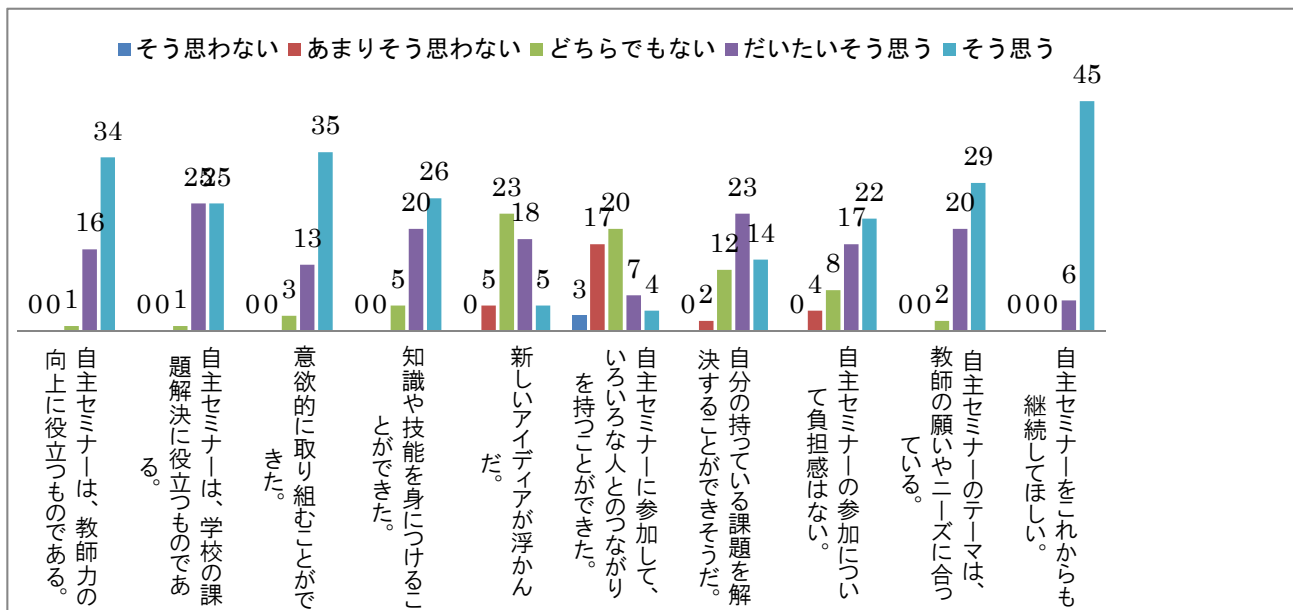
(5) 指導上の留意点

特になし

(6) 研修の評価方法，評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

自主セミナー「論文作成や授業評価・学校評価に生かすデータ分析」アンケート結果



自由記述

・自由度のことが（今更ながらですが）よくわかりました
・カイ二乗検定の手前まではついていけました。授業の時よりはわたしとしてはよく理解できてるほうです。
・昨年も参加させていただいたのですが、昨年の内容に追加されていてとてもわかりやすかったです。
・カイ二乗検定がいまいちわかっていなかったのがわかってよかった。自由度の説明がよてもわかりやすかったです。参考図書を読むだけでは？なところが多かったが、実際に説明を聞き入力等をしながら学べたので理解度が高まったと思う。今日学んだことをすぐに使わないと忘れてしまうので実際の場面で使っていきたい。
・講義の中に具体例があるのでとてもわかりやすいです。演習も実際にあることなのでこのままやってほしいです。
・内容がどんどん改善されていると聞き、先生の頭の中は一体どうなっているのだろうと不思議に思いました。わたしはとても数が苦手なのでこのようなプログラムがあることを知ることができありがたいです。
・分散分析の見方、判断の仕方が前より見えてきました。ただどういうデータにどういう分析方法を使えばよいかまだ判断がついていません。実際これからの学校支援や学修発表で使って活用したいと思います。
・とてもむずかしい内容でしたが、わかりやすく説明していただき理解が深まりました。すぐに使えるところまでに至っていませんが、よく復習してわからないところはまたお聞きしたいと思っています。
・「また疑問にこたえます。難しいから『あとは自分で』というつもりはない」という言葉が救いでした。

1 1 上越市教育委員会との連携研修

(1) 研修のねらいとその背景

上越市における学校教育課題を対象にした研修を実施し、教育キャリアの授業と関連させる。

研修テーマは教育委員会と協議した上で、現場ニーズにもとづくものに設定する。

ア 第1回「授業力向上研修会」～授業名人の師範授業研修 中学校国語～

全国で活躍される先生の授業を直に参観したり授業づくり等について具体的な話を聴いたりすることを通して、参加者一人一人が授業改善に向けた具体策を学ぶ。

イ 「小中一貫教育研修会」

上越市が取り組んでいる小中一貫教育のモデル中学校区における実践成果をもとに、これからの小中一貫教育の在り方を学ぶ。

ウ 第2回「授業力向上研修会」～授業名人の師範授業研修 小学校算数～

全国で活躍される先生の授業を直に参観したり、授業づくり等について具体的な話を聴いたりすることを通して、参加者一人一人が授業改善に向けた具体策を学ぶ。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

ア 筑波大学附属中学校 愛甲修子教諭

イ 学校教育研究所理事長・政策研究大学院大学教授 若月秀夫氏

ウ 筑波大学附属小学校 盛山隆雄教諭

(4) 実施内容

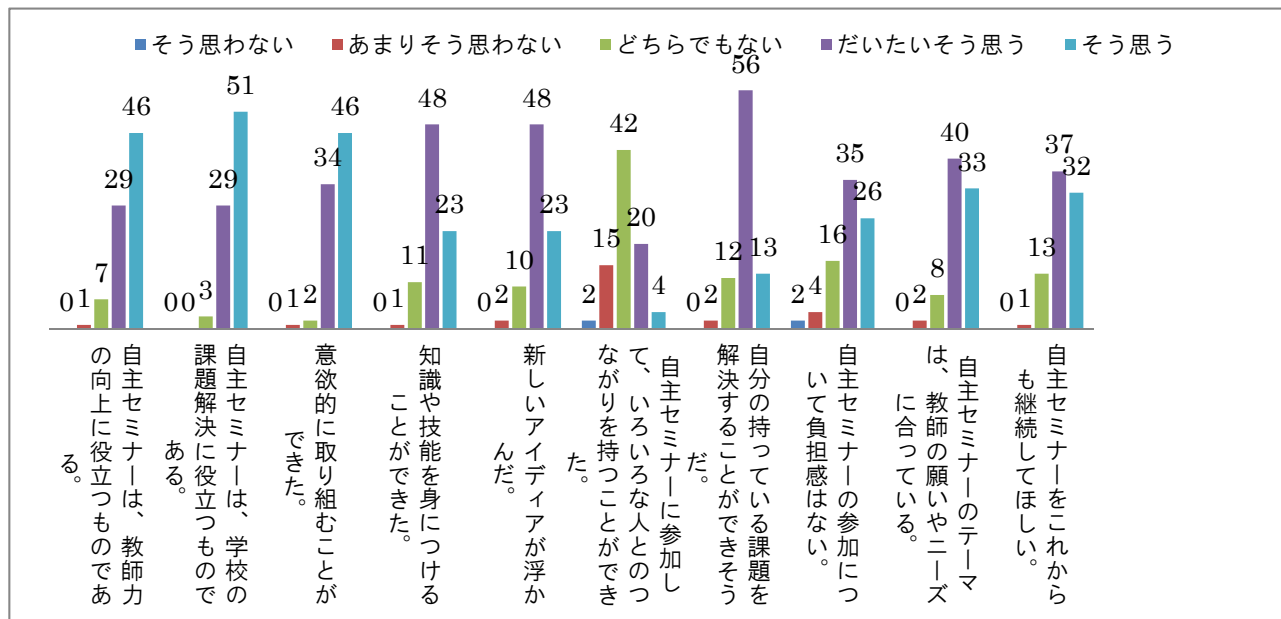
日時	内容	形態，教材，進め方等
12/3	<p>「授業力向上研修会」 ～授業名人の師範授業研修 中学校国語～ 筑波大学附属中学校 愛甲修子教諭 12:35～13:45 研修会及び調査研究等の指導助言（70分） 13:45～14:35 師範授業（50分） 15:00～16:30 講話及び協議会，ワークショップ（90分）</p>	<p>上越市立城西中学校 2年生 3組での師範授業（国語）と講話（国語の授業づくり） 会場：上越市立城西中学校</p>

1/13	<p>「小中一貫教育研修会」 ～モデル中学校区の実践成果検証と今後の在り方～ 学校教育研究所理事長・政策研究大学院大学 客員教授 若月秀夫氏 14:15～15:00 モデル中学校区実践成果発表 15:15～16:30 講師による検証及び講義</p>	<p>モデル校の発表及び講師による指導助言・講義 会場：上越市教育プラザ</p>
1/27	<p>「授業力向上研修会」 ～授業名人の師範授業研修 小学校算数～ 筑波大学附属小学校 盛山隆雄教諭 12:35～13:45 研修会及び調査研究等の指導助言（70分） 13:50～14:35 師範授業（45分） 14:55～16:30 講話（95分） 16:30～17:00 協力校及び教育委員会への指導（30分）</p>	<p>師範授業（4年生・算数）と講話（算数の授業づくりにかかわること） 会場：ユートピアくびき希望館</p>

(5) 指導上の留意点
 特になし

(6) 研修の評価方法，評価結果
 評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。

「小中一貫教育研修会」



自由記述

どうしたら現在の小中の関係・小中のカリキュラムの質を変えることができるのか。方法を考え、実践していきたい。

学校は地域のためにあることを再確認しました。

「義務教育の中で伸ばす力」を小中一貫で伸ばす。子どもたちのために小中一貫で教育の質を高める。胸に響く言葉を若月先生からたくさんお聞きすることができました。細かいところはこだわらないが深くやることを意識して今後の教育活動を展開していきたいと思います。

学校で出張者を調整すればいいのですが、担任をしている自分にとって、冬休み明け3日目かつ連休明けの出張は負担です。子どもの様子を気にすべき時期なので、日程を調整していただければ幸いです。

各校区にまかせないで、各校の校長・教頭クラスを集めて全体場で、この研修を行い、その中で校区ごとのグループを作り、カリキュラム作りを行う研修があると、市全体の意志が統一でき、管理職からおりてくることで教職員の意識も高まるのではないのでしょうか。

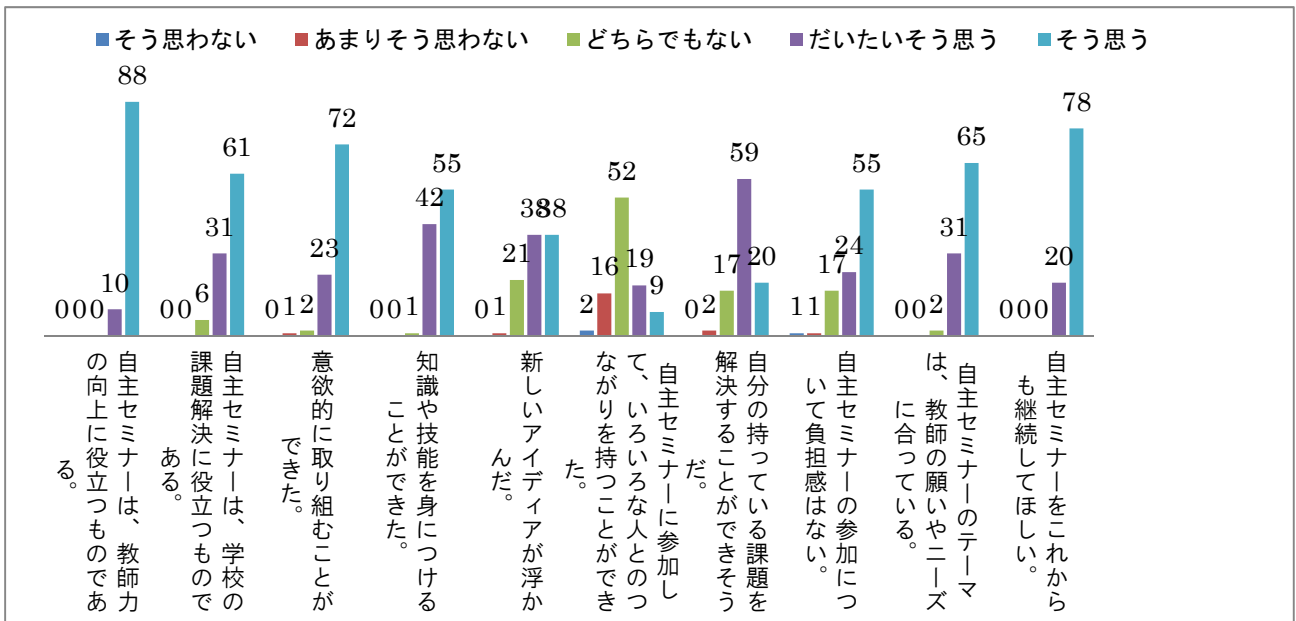
モデル校の実践は各学校区地域によって様々であるが、それがかえって参考になりました。若月先生の話は、これからの取り組み方や方向性について大きな示唆となりました。横一列ではなく地についた自校地域の実践、そして(名前は何と呼ぼうか)何のためにやるのかが大事である。本質に関わるいい話でした。

モデル校の実践や資料から当中学校区の課題が見えてきた。また、方策やアイデアを持つことができた。講演では意識改革の通筋を学ぶことができた。元気やヒントをいただくことができました。

各校の取り組みや若月先生のご講話を聴くことができ、大変良かったです。

モデル校の実践発表から、自校で取り組める内容のヒントを得ることができ、参考になりました。若月先生のお話から小中高一貫について認識を新たにすることができました。地域に根付く子どもたちの育成について、改めて考えることができました。

算数授業研修会「子どもの言葉でつくる算数活動」



自由記述

子どもの言葉でつなぐ授業のイメージを持つことができた。子どもが言った言葉をそのまま繰り返し、周りの子に聞いていくことで〇〇さんはどう考えたのだろうと、思考することができる。また、「5と考えたのはなぜなのだろう？」と答えのわけを考えさせることの良さをとても感じた。すぐに授業で生かせるヒントをたくさんいただきました。明日から生かしていけます。ありがとうございました。

「問い」を生むのが子ども、という視点は自分の中にはなかったので大変勉強になった。算数はもちろん学級経営にも関わるヒントをたくさんいただいたので一つずつできることから実践していきたい。

問題が解けた時、気分もワクワクしました。このワクワク感を子どもたちにも感じてもらえるよう授業を考えていきます。

「子どもの意欲を高める」「UDL」に基づいた授業改善に役立つ中身の濃い研修会だった。

子どもの声と向き合って正対して授業することがいかに大切か再確認させられた。生徒の言葉を使って授業すると生徒の言葉が精選されるというフレーズが一番心に残っています。難しいかもしれないけど実践してみたいと思いました。

まず上越にいて最先端の授業を見ることができていることに感謝しています。小貫先生に「一度見たほうがよい」ということを言われた意味がわかった気がします。改めて学校で振り返りたいと思います。

子どもたちが生き生きとして見ていて面白い授業でした。4年生は持っていないのですぐに取り入れられるかと言われたら分かりませんが、子どもの言葉を大切に自分も授業をしたいと思いました。教科書に載っている問題を少し変えるだけで子どもたちの食い付きがすごく、楽しく算数に取り組めるんだなと思いました。

実際の授業指導が参観できたことや盛山先生が普段どんなことを考えて授業づくりをされているのかについてお話を聞くことができてたいへん良かったです。プリントの最後に「子どもは言葉を浴びて育つ」という言葉がありました。子どもたちにはたくさんやる気が出るような、言葉を返してあげられる授業をしたいと思います。

1 2 妙高市教育委員会との連携研修

(1) 研修のねらいとその背景

妙高市における学校教育課題を対象にした研修を実施し、教育キャリアの授業と関連させる。

研修テーマは教育委員会と協議した上で、現場ニーズにもとづくものに設定する。

ア 「子供の命を輝かせる教育の実践を目指して」

教員にとって最も重要な児童生徒の個を生かす教育、かけがえのない命を大切に輝かせる教育を、教職員はもとより保護者とともに考える機会とする。

イ 「今の学びを将来につなぐキャリア教育の取組」

学習指導要領の基本的な考えの中に、「キャリア教育」がキーワードとして示された。キャリア教育の視点を日々の授業の中で常に意識すること、また、キャリア教育を教育課程に組み込む具体的な手立てを探ることなど早急に取り組まなければならない課題である。小・中学校の系統的な学びの中で、今を将来につなぐキャリア教育の取組について、深く学ぶ機会とする。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

ア 北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科 金森俊朗教授

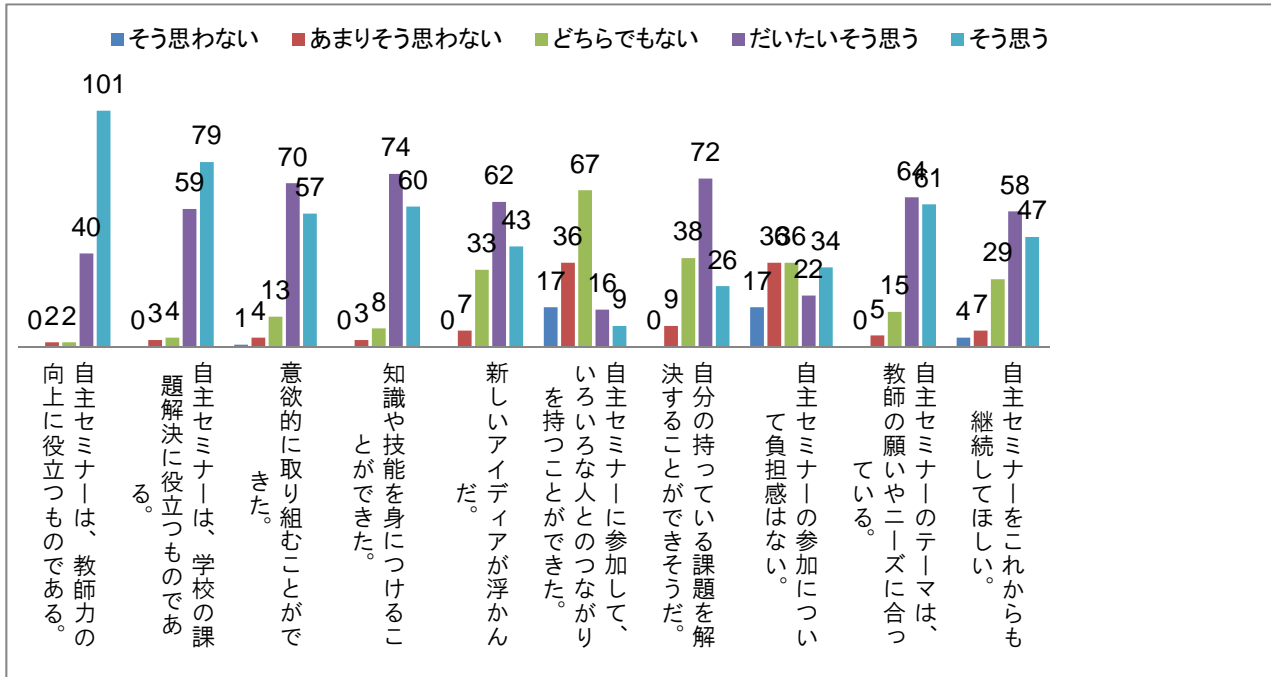
イ 筑波大学人間学群教育学類 藤田晃之教授

(4) 実施内容

日時	内容	目的
11/11 ~12	11日 講演会 17:45~19:15 「子供の命を輝かせる教育の実践を目指して」 12日 協議会指導・助言 9:00~10:00 北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科 金森俊朗教授	講師による講演と教育委員会及び参加者による協議会での指導。 会場：妙高市文化ホール及びホテルハイマート
1/22 ~23	22日 講演会 17:00~18:30 「今の学びを将来につなぐキャリア教育の取組」 23日 協議会指導・助言 9:00~10:30 筑波大学人間学群教育学類 藤田晃之教授	講師による講演と教育委員会・教育研究会及び参加者による協議会での指導。 会場：新井ふれあいホール

(5) 指導上の留意点
特になし

(6) 研修の評価方法, 評価結果
評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。



自由記述

学習意欲の重要性や断片をつなぐ重要性はとても共感できました。将来のつけたい力を意識して学習意欲を向上させることには疑問。事項の研究課題とも関連があり、意欲的に聞くことができました。
何回聞いてもキャリア教育のねらいは教え子にとってとても大切なことであると強く思います。全校体制で子供たちのために将来とつながる指導をしたいと思います。ありがとうございました。
日々の学習の中でもキャリア教育について考え、取り入れていければと感じました。貴重なご講演ありがとうございました。
今日は多くの知識やヒントを与えていただきました。自分の課題を与えていただき、また明日からがんばっていこうと思います。今日はありがとうございました。
私は教師ではないのですが、学校の課題を理解した上で、教育課程づくりに参画していくことが必要だと感じました。とても前向きに明るく仕事に取り組む姿を子供たちに見せたいと思います。
有意義な研修の機会をありがとうございました。楽しく学べました。
子供の姿をしっかりと把握し、具体的な目標を立てることが大切だということがよくわかった。・どのように力をつけたいのか、必要なのか。・全教育活動において、キャリア教育を意識すること。

今までは「キャリア教育」というとちょっと敷居が高いなと思っていましたが、今日のお話を聞いて、小学校でも今までの活動の取組方を多少見直せば実践できるのでは？と思うことができました。熱のこもった、時に笑いのある講演、ありがとうございました。

1 3 糸魚川市教育委員会との連携研修

(1) 研修のねらいとその背景

糸魚川市における学校教育課題を対象にした研修を実施し、教育キャリアの授業と関連させる。

研修テーマは教育委員会と協議した上で、現場ニーズにもとづくものに設定する。

新潟県における学力向上に向けての取組の現状と課題を把握し、糸魚川市における学力課題をとらえ、そのための実践的な取組を学ぶ。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

上越教育大学 佐藤賢治特任教授

(4) 実施内容

日時	内容	目的
12/25	15:10～ 新潟県小・中学校教育課程及び糸魚川市内小・中学生の学力課題について（市教委） 15:40～ 講義「学力向上のためにできること」 上越教育大学 佐藤特任教授	糸魚川市における学校教育課題を対象にした研修を実施し教育キャリアの授業と関連させる。

(5) 指導上の留意点

特になし

1 4 柏崎市教育委員会との連携研修

(1) 研修のねらいとその背景

柏崎市における学校教育課題を対象にした研修を実施し、教育キャリアの授業と関連させる。

研修テーマは教育委員会と協議した上で、現場ニーズにもとづくものに設定する。

ア 「どの子どもねらいを達成する授業づくり」

すべての子どもの主体的な学びと育ちを実現させるためには、教師の役割がとても重要である。特別支援を必要とする子どもを含めた通常学級における授業づくり、授業公開、協議会のポイントについて公開授業と講師による指導で学ぶ。

イ 「これからの授業づくりに必要な視点」

全国の優れた実践を紹介していただきながら研修を深め「何を学ぶか」ではなく「どう学ぶか」を重視するかに視点をあてながら講義を受ける。さらに参加者との質疑応答を通して研修を深める。

(2) 対象

地域の小・中学校及び県立学校の教職員、地域の教育委員会の指導主事、本学大学教員・大学院生・学生

(3) 講師

ア 岡山大学 佐藤暁教授

イ 国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官 田村学氏

(4) 実施内容

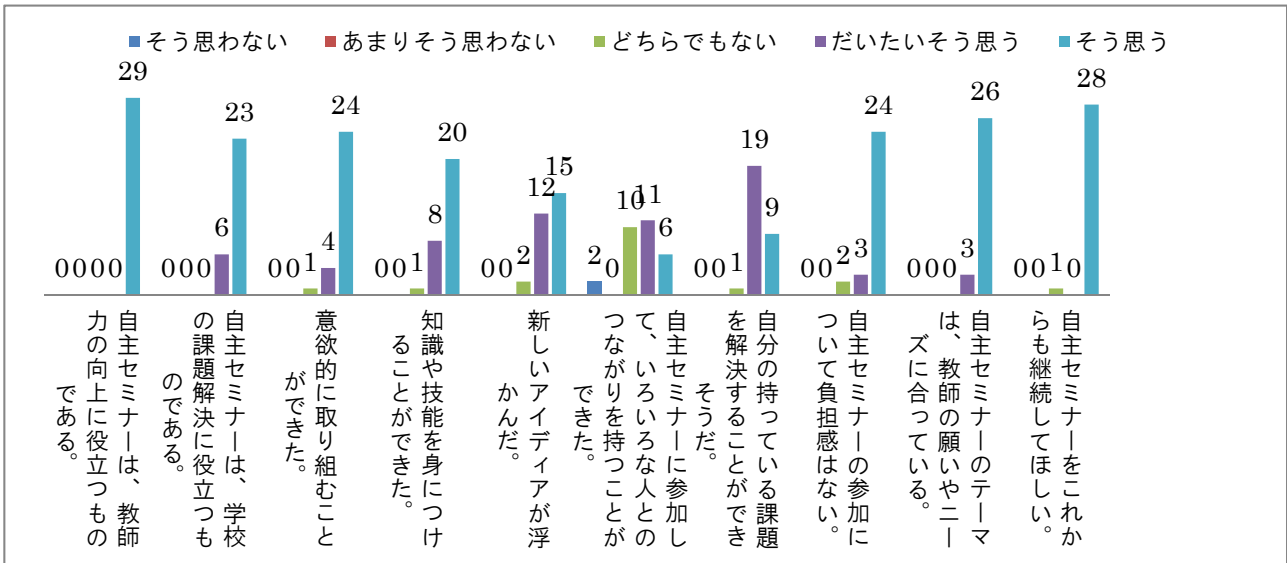
日時	内容	目的
12/11	「どの子どもねらいを達成する授業づくり」 9:00-12:00 研修会及び調査研究等の指導助言 13:20-14:00 公開授業指導案についての解説 14:00-14:50 授業公開（瑞穂中・小林先生） 14:50-17:10 議会，講義及びワークショップ	柏崎市における学校教育課題を対象にした研修を実施し、教育キャリアの授業と関連させる。
1/16	「これからの授業づくりに必要な視点」 15:00-16:30 講義 16:30-17:30 学校別研修体制指導・助言	

(5) 指導上の留意点

特になし

(6) 研修の評価方法, 評価結果

評価は10項目5件法と自由記述によるアンケートで実施した。



自由記述

あらたに刺激が得られた。世の中のニーズ、動向を知ることができてよかった。新しい授業、実践の場にどんどん出て見て学ぶ必要を感じた。

広い視野からこれからの教育について教えていただきありがたかったです。また授業の質という目の前の身近な課題についてもお話があり、自分の日々の取り組みを振り返るよい機会になりました。

久しぶりに田村学先生のお話を聞くことができて、エネルギーをもらったような気がします。

この事業は大変実のある研修です。より多くの人に参加してもらい、個の授業を変えながら、組織として学校や地域を変えていく力となると確信しています。

アクティブラーニングの重要性がよくわかりました。高度な教師力が必要になることはもちろんですが、とてもワクワクした気持ちになりました。学び合いを促進する教師になれるよう頑張っていきたいと思えます

アクティブラーニングをどのようにしたら、どれだけ取り入れていけるだろうか…。を考えながらお話を聞かせていただきました。若いころはもっと探究心もあり、柔軟に対応していたなど反省させられました。枇杷島小は生活の研究をしており、グループの話し合いから全体への収束のところまで悩んでいたのが、今日のお話を聞きすっきりしました。学級会でも論点を整理してあげると途端に話し合いが活性化するのを感じました。今その論点を子どもが気づけるように指導をしているところです。今日のお話からそれを伝え生かしていきたいと思えます。

「アクティブラーニング」とよく耳にするが、今日の研修を通してその内容や方向性がよくわかりました。今後日々の授業の中で1つでも挑戦して、より楽しい授業を実現していきたいと思えます。

とにかくあっという間の二時間弱でした。今話題の「アクティブ・ラーニング」をもとに、わかりやすく元気の出る研修でした。これまでやってきたことを自覚的、意図的に行うことで、学校が楽しくなりそうです。若い先生方にもぜひこの講演を聞いてもらいたいと思えます。

アクティブラーニングの大切さがとてもよくわかりました。主体性と協働性が大切で子どもたちの概念形式を育てていくことに重きを置いていきたいと感じました。あとは時数、時間との戦いだと思えます。総合の分析場面はあまり上手に展開できませんでした。もっと勉強してツールを使ってみたいと思えます。自分の仕事は教師であると改めて強く感じる事ができ、自分を高めていくことを決意しました。

III 連携による研修についての考察（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

（１）アンケート及び自由記述による評価から

概ねすべての結果で肯定的な評価がなされている。しかし、セミナーを通じて参加者同士の交流を促進するという目標については、まだまだ十分な成果が出ているとはいえない。セミナー後に参加者が会場でいつまでも話し合う姿はよく見られる光景であるが、日常的な交流につなげるような SNS の活用など交流を促進するための何らかの手段や仕組みが必要だと考える。

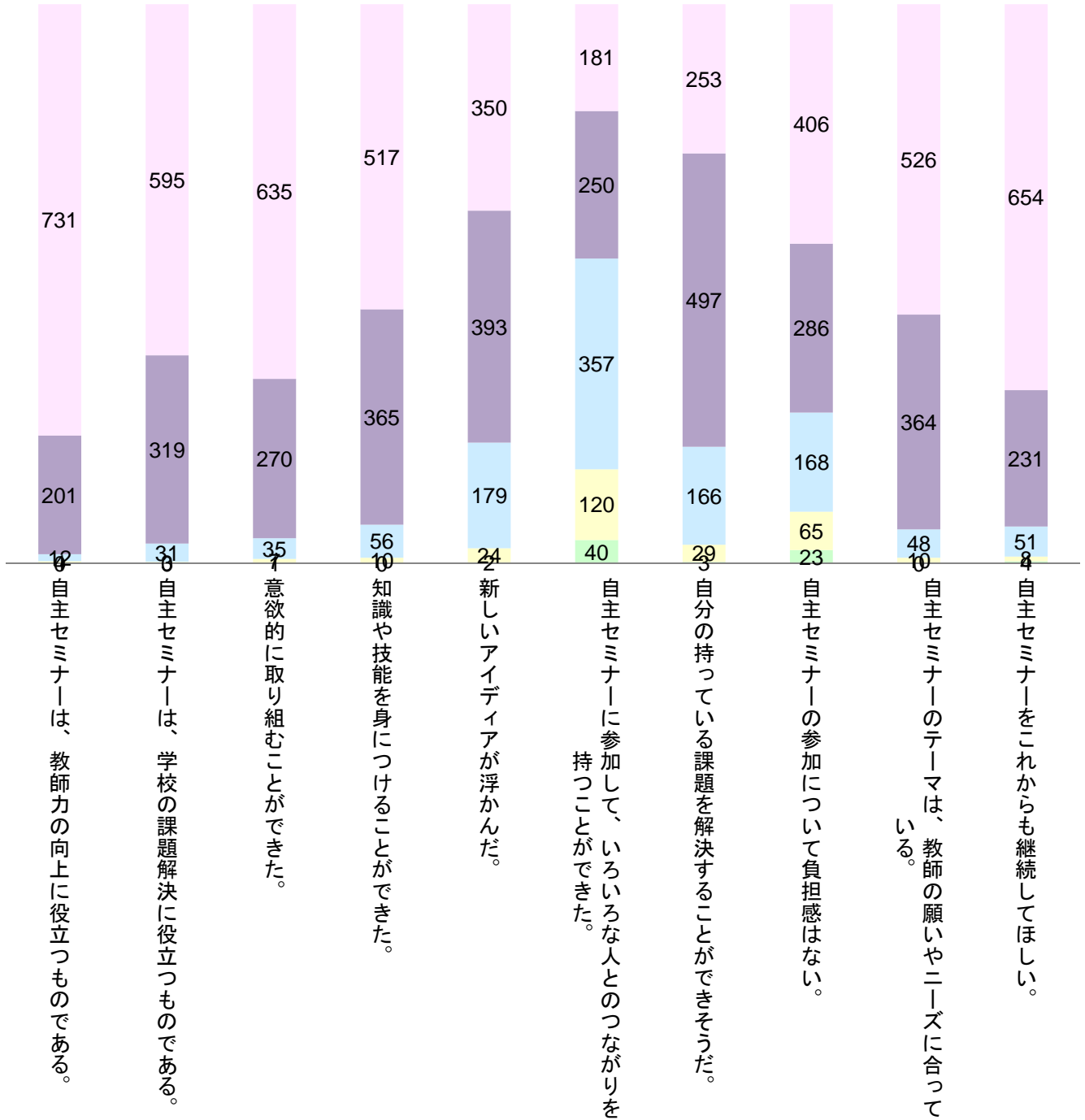
セミナーアンケート実施結果 H26/4月～H27/3月

アンケート回答者数 948名（参加者1026名）

質問	質問内容	そう思わない(系列1)	あまりそう思わない(系統2)	どちらでもない(系統3)	だいたいそう思う(系統4)	そう思う(系統5)
1	自主セミナーは、教師力の向上に役立つものである。	0	4	12	201	731
2	自主セミナーは、学校の課題解決に役立つものである。	0	3	31	319	595
3	意欲的に取り組むことができた。	1	7	35	270	635
4	知識や技能を身につけることができた。	0	10	56	365	517
5	新しいアイデアが浮かんだ。	2	24	179	393	350
6	自主セミナーに参加して、いろいろな人とのつながりを持つことができた。	40	120	357	250	181
7	自分の持っている課題を解決することができそうだ。	3	29	166	497	253
8	自主セミナーの参加について負担感はない。	23	65	168	286	406
9	自主セミナーのテーマは、教師の願いやニーズに合っている。	0	10	48	364	526
10	自主セミナーをこれからも継続してほしい。	4	8	51	231	654

セミナーアンケートH26/4月～H27/3月

■ そう思わない ■ あまりそう思わない ■ どちらでもない ■ だいたいそう思う ■ そう思う



（２）研修カリキュラムの開発（企画，実施，評価）に当たっての工夫・留意

学校教育現場や教育行政の現場では，常に社会の要請を受けて変革の波を教育活動に反映していかなければならない。たとえば不審者による重大事件が起きると安全・安心教育を反映させた学級活動を展開しなければならなかったり，デング熱の騒動があれば感染症予防のために保健指導を行わなければならなくなったりする。いじめや不登校の問題も永年学校教育現場で抱える問題であるが，昨今は SNS や LINE などネット利用やゲームなどのメディアとの関連が問題になってきている。ICT 教育やインクルーシブな教育などこれまで以上に新しい知識や技術が求められていて，教師の多忙化に拍車をかけることになる。かといって研修メニューを教育委員会がすべて用意し，命令研修で教師の指導力を向上させようとするには，教師の時間的余裕，行政側の予算の問題，適正な指導講師の掌握など様々な障壁がある。

大学は，地域貢献を学校教育法で位置づけられ学校現場や教育委員会との連携が必須になった。しかし，教育現場をサーベイする立場にもある大学の研究者が行う研修は，どうしても自分の研究分野や追求するテーマなどにしぼられ，必ずしも教育現場のニーズに合致しないことが多い。このような大学，学校現場，教育委員会の連携で行う研修は，それぞれのポジションが強く反映されてしまうと形骸化され実質的な効果が少ないものとなってしまう。さらには学校現場教員を研修企画によってかえって多忙化を促進することになってしまう。目の前にある差し迫った問題解決をしつつも中期展望がもてたり長期的な課題解決に結び付いたりするようなセミナーである必要がある。

そこで，本事業では大学，教育委員会が連携する運営委員会を設け下記のような事項に重点をおいてマッチングを行うための協議を行い，研修セミナーのメニューを定めた。

- ・ 学校現場の抱える重要課題
- ・ 学校現場における喫緊の課題
- ・ 教育委員会の抱える重点課題
- ・ 教育委員会における喫緊の課題
- ・ 大学の教員のもつ研究テーマやポテンシャル
- ・ 特任准教授の問題意識（県教育委員会から大学に派遣されている大学教員の問題意識）

そこでの協議で出てきたキーワードが，「発達障害のある子どもへの対応」，「メディアリテラシーの充実」，「ICT 教育の充実」，「コミュニティー・スクールに関する知識，学校経営に生かす学校評価」，「各教科における学力向上」，「人権教育・同和教育の意識向上」，「生活科・総合的な学習の時間の充実」などである。

セミナーの講師については学校現場や教育委員会のニーズを反映しつつも，大学がもつ専門性や知的資産を有効に活用できるような双方向の利点を追求できるように，大学教員，現場教員，教育委員会指導主事，大学特任教員などがあたることにしている。

セミナーの開設時間は，大学施設で行うセミナーについては夕刻あるいは土日

に設定し、学校現場教員が自主的に参加しやすいように配慮している。教育委員会が実施する研修については、大学院生が参加できるように大学内に研修時期を示したポスターを掲示し、またメーリングリストやメールマガジンを通じて周知するようにしている。

（３）他の教育委員会に参考にしてもらいたいこと

県レベルの教育委員会と出先機関である教育事務所、そして市町村レベルの教育委員会の連携は必ずしもうまく言っているとは言いがたい。行政機関としての上下関係や教育委員会どうしの同列性など、連携には少なからず支障がある。たとえば、市教育委員会主催の研修には原則として他市町村や県立学校職員は参加できないことが多い。逆もある。重複する内容の研修を同時に行っていることも多い。学校の設置者が違うためであるが、教員はそのような意識はあまりない。教員にとっては、市立学校の教員という意識よりも小中学校の教員であり、特別支援学校の教員であるだけである。

大学は研究機関であり教育機関である。教員養成系大学は研究活動が次世代の教員養成教育に資することにつながるということが重要であり、常に実践的な研究を求められている。そのフィールドは学校現場や教員になるが、研究的な視点だけでフィールドを確保しようとするとう学校の教育活動を圧迫することになりかねない。常に学校の教育活動を支援しつつ実践的な研究を行うことが重要である。しかし、そのことの理解と協力を学校現場から得ることは難しい。

本実践のように大学が各教育委員会の連携のハブ的機関になることで、それらの問題は解決する。連携協議会を設け、学校現場のニーズ、県教育委員会のニーズ、市町村教育委員会のニーズ、そして大学の研究機関としてのニーズ、それぞれのニーズをマッチングさせることで研修の地域的壁を突破し、教育機関と研究機関の壁も通り抜け、真に教育の質向上を目指すことができる。

（２）キーワード

教育委員会との連携、教員研修、教員養成カリキュラム、今日的な教育課題、ICT教育、特別支援教育、インクルーシブな教育システム、ユニバーサル・デザイン・ラーニング、発達障害、小学校英語活動、生活科、総合的な学習の時間、動物飼育、理科学習、野外観察、自然観察、体育実技、ボール運動、人権教育、同和教育、国語教育、算数教育、小中一貫教育、命の教育、授業づくり、学力向上

（３）【人数規模】 D・51名以上

（４）【研修日数(回数)】 D・11日以上

【問い合わせ先】

国立大学法人上越教育大学 大学院学校教育研究科・教授・石野正彦
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel:025-542-0252 Mail: ishinoma@juen.ac.jp